

令和7年度 学校関係者評価委員会

日時 第1回：令和7年7月3日（金） 13:45～15:15

第2回：令和8年2月12日（木） 13:25～15:05

場所 串木野高等学校校長室

1 委員

串木野高等学校同窓会長	久木野 親志
串木野高等学校PTA会長	中袴田 洋絵
いちき串木野市立串木野中学校長	森本 信一
串木野建設工業株式会社代表取締役	小原 雅史
串木野高等学校同窓会副会長	寺師 真由美

2 学校職員の出席者

校長 教頭 事務長

教務部主任 進路指導部主任 生徒指導部主任 保健部主任

3 内容

- (1) 校長挨拶
- (2) 委員及び学校職員紹介
- (3) 学校概況説明
- (4) 質疑応答(意見交換を含む)

4 委員からの御質問、御意見等

・授業の取組について

個別対応がよくなされた授業がなされている。特に、教科によっては学年を2～3グループに分け学力に合わせて授業展開したり、お互いに教え合いながらアクティブラーニングが実践されていたりした。

・総合的な探究の時間「串木野学」について

県内で各種表彰を受けるなど、顕著な取り組みが見られる。また串木野学部屋などを設置し、取り組みの見える化が図れていることが後輩たちへの刺激になる。また、地域での認知度も上がり、串木野高校の取り組みの評価も高くなっている。

- ・中学校との関わりについて

地元の中学校3校が統合されるにあたり350名が450名規模の学校になる。今後、どのような連携方法を図るか検討する必要がある。

アプローチ方法として生徒の交流（部活・学習・文化）なのか、先生方への交流なのか、生徒募集に繋がるような工夫が必要だと考える。

- ・アルバイトの有効性について

地域との連携を図るのにアルバイトの有効性もある。地域としては人材不足であり、高校生を働き手として得ながら、社会勉強や地域貢献が可能になる。学歴重視の人材確保から面接重視の採用試験などに変化してきていることを考えると、高校生の内に経験しておくことは大事ではないかと考える。

- ・学校の広報に関して

非常にうまくいっていると感じている。SNSのフォロワー数の増加は微増だが、レスポンスは早く、校長から保護者向けの串高通信や職員が作成するいきいき串高は評価が高い。また、学校のホームページも随時更新されている状況がある。

- ・学校評価について

中間評価については例年と変化はあまりなかったが、最終評価について生徒や保護者の満足度は上がった一方で、教職員の評価が下がった。これは職員研修や教育活動の流れを学習したことで、それぞれの課題や目標設定が高く、多様な生徒に対する教育活動の必要性を感じていると考えられる。

- ・高校生の身だしなみについて

時代に即した対応を求められている状況が理解できますが、年齢層によっては見方が変わるのが現状です。生徒・保護者だけでなく地域も学校での頭髪服装に対する考えを公表した方がよいかもしれない。